

活動名	団体名	特定非営利活動法人 おのみち寺子屋
	地域	広島県尾道市
	代表者	理事長 柿本 和彦
	支援金額	50万円
第8回おのみち100km徒歩の旅		
活動概要		
<p>【目的】 1. 青少年健全育成(体験学習) 2. 生涯学習(生きがい・やりがいの創造) 3. 市民参加のひとづくり 4. 地域コミュニティの活性化</p> <p>【内容】 ①リーダー養成:学生ボランティア(大学生・高校生)の事前研修 ②ボラ研養成:学生ボランティアの補佐をする中学生の研修 ③本番:小学生が尾道市内のコース100kmを4泊5日を掛けて歩き抜く事業 ④フォローアップ研修:学生ボランティアの事後研修</p> <p>◆実施時期 リーダー養成:5月9日(日)~7月25日(日):計13日間《向島公民館、他》 ボラ研養成:7月11日(日)~8月28日(土):計10日間《向島公民館、他》 本番:7月18日(日)、8月6日(金)~10日(火)、8月28日(土):計7日間 《尾道市内の幹線道路、公共施設(体育館、プール等)》 フォローアップ研修:平成22年8月21日(土)~9月25日(土):計4日間 《サンボル尾道、他》</p> <p>◆参加人数 参加小学生:700名、参加小学生保護者:700名 ボランティア研修生(中学生):110名、学生ボランティア(高校生):24名、 学生ボランティア(大学生):1,320名、社会人ボランティア:57名 参加総人員:2,854名</p>		



リーダー養成(プレゼンコンテスト)



本番(結団式)



隊列風景(因島大橋)



ゴール(尾道市民センター)

◆実施に伴う効果

【リーダー養成】

学生ボランティアのリーダーとしての能力や資質が育まれ、また、生きがい・やりがいを醸成することができました。そして、積極的に、謙虚に行動することを身につけることができ、学業や市民活動により一層活躍してくれるようになりました。公共心の第一歩となる、すべてのモノへの感謝の念も育んでくれ、個と公のバランスを持って行動してくれるようになりました。

【ボラ研養成】

学生ボランティアと共に子どもたちをサポートすることにより、“人のお役に立つ”という仕事本来の素晴らしさを体感し、たくましく頼もしく生きていく自立した人間に成長してくれました。

【本番】

参加小学生100名は全員完歩し、忍耐力や協調性、積極性、感謝の念を育んでくれました。また、ゴールでの達成感は大きな自信となり、さまざまな場面で好影響をもたらしてくれています。地元のケーブルテレビをはじめ、多くのメディアが取り上げてくださり、今年はNHKでも番組として制作をしてくださいました。記録映像を小学校の道徳授業で利用したいなどの問い合わせもあり、地域に浸透して来ました。子どもたちをサポートした学生リーダーも多くの障害を乗り越えながら、たくましく成長してくれました。

【フォローアップ研修】

リーダー養成及び本番を通じての学び・気づきを日常生活において習慣化してもらうきっかけを作ることができました。また、過去の自分を振り返り、深く掘り下げることを通じて、現在の自分をより良く知り、将来の夢を具体的に描くことができました。そして、その夢に向かって歩いていくために目標を設定してもらうことができました。

◆苦勞した点

- ・企業協賛の募集活動が、昨今の景気の影響で思うように進みませんでした。
- ・テレビ局(NHK、広島ホームテレビ)の番組制作による打ち合わせや当日の撮影などにより、イレギュラーな事案が多く発生しました。
- ・学生ボランティアの資質が年々低下しており、リーダー養成での意識づけや本番でのモラールアップに苦慮しました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・体験不足の学生ボランティアが増え、結果、知恵を出せない学生が増えたため、準備段階での作業が本番で生かされないケースが出てくるようになりました。これまでは作業マニュアルをすべてゼロから作ってもらっていましたが、係りによっては過去のマニュアルを利用してもらうなどの工夫が必要になるかもしれません。
- ・経済格差の影響か、あるいは貧困層増大の影響か、公務員や大手企業の家庭の子どもたちがエントリーの大半を占めるといった現象が見られるようになってきました。できるだけ幅広い子どもたちにエントリーのチャンスを与えることができるよう、登録料を抑え、企業協賛を募り、ボランティアによる運営を行っていますが、何らかの方策を検討しなければならないかもしれません。
- ・ストレス耐性が育まれていない学生が増えてきたため、リーダー養成期間中のフォローがこれまで以上に大切になってきました。

◆活動を終えての感想・意見等

第8回おの100も多くの方々のお力をいただき、無事に全員完歩することができました。

参加小学生の資質や能力は8回を数えた今回も開催当初とそれほど変わりませんが、学生ボランティアの資質は明らかに低下しています。まさに、幼少期の体験不足が生きる力の欠如となって今の大学生に現れてきているように感じます。意欲の低下、自己肯定感の無さなども社会が求める人材と大きく乖離してきています。

大学生の成長をサポートできるプログラムになるよう、リーダー養成のカリキュラムを変更していくことが急務のように思いました。

幸いにも、小学生や保護者の皆様からは多大なるニーズを得ていますので、青少年健全育成の“青年”に重きを置いたアプローチを今後は考えて参りたいと思います。